



障がい者通所施設で生産された商品を通じて、多くの方々に笑顔をお届けするイベント「ハッピースマイルフェスタ」。12月、ゲートシティ大崎のモール広場を会場に、社会福祉法人いたるセンターからは目黒本町福祉工房が参加しました。

①人材の採用・育成・定着に向けた取組の強化
「人材開発室」については、阿久津津長がすまいる高井戸のセンター長に就任しましたが、オンライン研修「サポーターズ・カレッジ」の活用促進に尽力し、各事業部に担当委員を置き、計画的な視聴をスタートしています。全体職員研修においては、各事業部の事業計画内容の全体共有、東京都障害者虐待防止・権利擁護研修の伝達研修を実施し、法人および所属事業所の事業方針の理解を高め、また虐待防止についての法改正や強度行動障害、重度化・高齢化する障害者支援について学ぶ機会を作りました。

職員への処遇改善では、昨年度にグループリーダーおよび統括リーダーの最低本給をアップし、中堅層の処遇改善を図りました。また、準職員制度を中止し、正職員および非常勤職員のみの方を見直ししました。さらに「やりがい」と「対価」で報いる「新人事考課制度」の導入検討を進めました。処遇や福利厚生をはじめとする労働環境は、採用にも大きな影響を与える重要な要素となっており、慎重に議論を進めて

まいります。
公認心理師による職員カウンセリングを継続実施し、職員のメンタルヘルス対策に注力しています。また、自己申告制度については、自己申告対象者154名、面談希望者25名(16.2%)でした。下半期にかけて面談を行い、その要望を確認中です。この結果を検討・研究し、事業所内異動や事業所外異動にも積極的に取り組み、職員カウンセリングの結果も合わせ、風通しの良い法人作り、より良い組織形成に活かしてまいります。

②中長期計画の策定
5つの事業ドメインについての再検証は、経営会議をベースに検討予定でしたが、医療ドメインの中核となる「いたるクリニック」の業績を含め、あらためて経営会議等で再検討を行ってまいります。農業については、杉並地区の「すぎのこ農園」での活動に積極的に参加し、農福連携で利用者様の日中支援の充実を図りました。

④地域貢献活動へのアプローチ
地域共生社会の実現を見据え、社会福祉法人に求められる地域における公益的な取り組みについて、地域社会の一員として社会貢献活動を牽引することを目的としています。各事業部における活動も報告が上がり、阿佐谷地区の「あさきたシルクロード」の活動は、地域における多職種連携のモデル事業として、東京都の市区町村の社会福祉協議会の職員が視察に訪れる等、注目を集めました。

③共同生活援助(グループホーム)事業の活性化と老朽化対策
昨年来、老朽化の進むグループホームの移転や建て替えについて、法人本部を含むプロジェクトで他法人の視察や意見交換を積極的に行い、効率的かつ利用者利益を損なうことのない運営が可能な計画検討を進めてきました。まずは、老朽化したグループホームの利用者の移転候補地を、拠点となるグループホームに近接したエリアに集約するなど、将来的なビジョンを明確にし、中長期的展望において再構築をしてまいります。

令和5年度 上半期 理事長職務執行状況報告

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山勝崇



目次 contents

- 01 令和5年度 上半期 理事長職務執行状況報告
- 02 事業所通信 事業部からの情報発信
- 03 *阿佐谷福祉工房 *あけぼの作業所 *イタル成城 *目黒本町福祉工房 *パン工房ブック *包括ケアセンター・グループホーム *サポートウイズ *すまいる高井戸 *クローバー・マルコ
- 04 事業所通信 事業部からの情報発信 *のぞみ寮 *ピヨピヨおうちえん(保育) *さんまるしえ *SDGs推進室

QRコードのご案内
いたるセンターホームページ
いたるセンターInstagram
いたるセンターフェイスブック

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振り込み 00110712892
口座 339217346 事務局 山本まで
問



事業部からの情報発信・事業所通信

■のぞみ寮

管理者 山本義彦

2019年から当法人で運営してきた目黒区立のぞみ寮ですが、今年度末をもって目黒区の指定管理が終了することになりました。12月17日(日)に目黒区主催でご利用者とご家族への指定管理者変更の説明会が滞りなく行われ、これから3月末日の業務移管に向けて鋭意引継ぎを行っていきます。高齢化が進むなか健康管理に重点を置き、職員と利用者の信頼関係も構築できていただけに誠に残念であり、利用者及びご家族の方に申し訳ない思いでいっぱいですが、目黒区の決定であり、出来る限りご迷惑をおかけしないよう、次の事業者への丁寧な説明とOJTを実施していきたいと考えております。

■ピヨピヨおうちえん

マネジャー 大上茂樹

明けましておめでとうございます。ピヨピヨおうちえんでは、お正月を家庭で過ごした子ども達が1月4日からまた元気に登園しています。昨年の10月末にはハロウィンで仮装をし、いたるセンター本部をはじめ近隣の施設などを訪ね交流を深める中で、地域の皆さんに支えて頂いていることを実感することが出来ました。また、12月にはクリスマス会でサンタさんにプレゼントをもらうなど保育園での生活を楽しむ事が出来ました。3月が終わると、2歳の子ども達は次の保育園や幼稚園へと進んでいきます。次のステップへと成長していく子ども達を頼もしく感じる毎日です。



■さんまるしえ

店長 表尚哉

さんまるしえでは11月よりSNSを開始しました。Instagramを利用して、当店で取り扱う目黒区の障害福祉施設で作られた自主生産品の情報や、さんまるしえオリジナルのカフェメニュー等を日々紹介しています。まだまだフォロワー数が少ないので、ぜひ皆様ご閲覧いただきフォローをしていただけると幸いです。また12月からはご要望が多かったキャッシュレス決済に対応しました。クレジットカード、電子マネーでのお支払いが可能となり一気に利便性が高まりました。

これらをご利用者の工賃アップに確実に繋がる様、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。



■SDGs推進室

統括リーダー 渡邊菜都

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。当事業部が障害者雇用のフォローアップをしている三井不動産リアルティ株式会社の業務サポート室荻窪デスクでは、これまで感染状況に応じて週4日の出勤と週1日の在宅勤務で感染防止対策をされてきましたが、昨年5月に、新型コロナウイルスの感染対策が緩和され在宅勤務が無くなりました。「変化の時はストレスがセット」とよく言われますが、当初は心身の疲れを感じているメンバーの皆様もいらっしゃいました。今では徐々に慣れて大きな混乱なく業務に取り組まれております。引き続きメンバーの皆様の体調、メンタル面、生活リズム等注意を払って、当事業部のチームとともに努めてまいります。

いたる広報委員

発行責任者=谷山 勝崇
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2024年1月15日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと



ホームページ



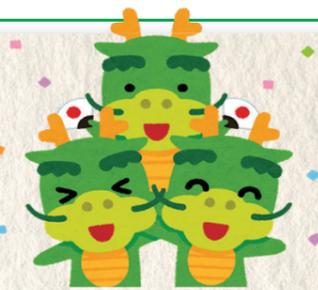
Instagram



フェイスブック



事業部からの情報発信・事業所通信



■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏



11月13日付で阿佐谷福祉工房の施設長として着任いたしました大澤宏です。異業種からの転職ですので皆様より多くのことを学ばせて頂きたいと願っています。

10月28日に阿佐福コンサートを開催しました。すまいる高井戸センター長の阿久津さんもメンバーであるヴィレッジセブンにもご参加いただきました。馴染みの演奏者が多く御利用者様と一緒に歌ったり踊ったりと笑顔多く楽しい時間を過ごしました。

11月には5月に続き日帰り旅行に出かけました。生活介護事業部は10日にマザー牧場、就労継続B型事業部は17日に急遽行き先を変更して航空科学博物館に行きました。両日もあいにくの雨でしたが、半年ぶりの外出を楽しまれていました。お手伝いに来て下さった皆様本当にありがとうございました。

■あけぼの作業所

施設長 山田弘子

10月7日(土)にお楽しみ★DAYを行いました。今年度は事業部ごとにミニ運動会を行い、朝は元気いっぱいだったご利用者は帰る時は疲れが見られ、職員は筋肉痛になるほど必死に競技を行っていました。

競技に使う物品づくりから当日まで、ご利用者、職員、保護者が一緒に取り組み、あけぼの作業所が「ONE TEAM」になれたイベントでした。



■イタル成城

副施設長 安倍真紀

12月1日からイタル成城に配属となりました。安倍真紀(あんばいまき)です。出身はドジャースの大谷翔平選手と同じ岩手県奥州市です。体育大学を卒業してから一般企業を経て社会福祉法人で約25年従事させていただいてきております。中でもここ数年は、障害者や高齢者、地域住民がお互いに支え合うまちづくりに関わらせていただけてきました。石川県の法人では地方創生に関わる福祉からはじまる地域づくりに従事させていただき、前職では高齢者、障害者、地域住民等が利用できる多機能拠点の立ち上げを行いました。

地域づくりの中で、就労事業として蕎麦屋、自家焙煎珈琲店、ウェルネス、クリーニング事業等の立ち上げを行い、障害者の方との仕事づくりを地域の方や企業の方と共同でさせて頂く中で、障害者の方と地域の方とが関わる場をつくっていくことが、優しい地域づくりにもつながっていくと感じてきました。

いたるセンターにおいても地域に根ざした福祉に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



■目黒本町福祉工房

施設長 池田佳津男



目黒本町福祉工房では11月24日(金)の午前と午後にご利用者にも参加して頂き、全体防災訓練を実施しました。

午前は火災想定避難訓練ならびに、目黒消防署から水消火器をお借りして消火訓練を実施しました。更に今回は総合訓練として、またBCP訓練の一環として午後発電機を作動させ照明灯を点灯させる非常電源の作動訓練ならびに非常食のわかめご飯の炊出し訓練と全員で試食をしました。

訓練の重要性をご利用者にも説明させて頂き、ご利用者も真剣にそして楽しく参加して頂けたと思います。



■パン工房プクプク

統括リーダー 池田史暢



謹んで新年のお慶び申し上げます。旧年中は多大なるご支援賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も原材料・燃料等の高騰が絶え間なく続いており値上げも含め非常に厳しいものになりました。一方で、中野区の区立保育園全園にパンの提供が始まり、杉並・中野と2区にわたり区立保育園全園に供給されはじまりました。これまで以上に安定した品質・安全面で絶対的な品質を揺るぎないものとして引き続き取り組んでいきたいと思っております。店舗は開設してから15年の節目になり店舗しかない魅力を強調していきたいと考えています。外販は引き続き阿佐ヶ谷高架下にある「にぎやかな風」を今まで以上に活用しながら地域に根差していくことを約束したいと思います。

辰年にちなみ当事業所が登龍のごとく飛躍するようスタッフ一同邁進していきますので引き続きご支援ご協力賜りますよう深くお願い申し上げます。

■包括ケアセンター・グループホーム マネジャー 水谷泰三

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は多くのお力添えをいただき誠にありがとうございました。本年のグループホーム事業部は、変革元年の年と考えております。グループホームの老朽化に伴う新たな場所への移転や改築を検討しております。それを契機に施設の再整備を図っていきたくと考えております。グループホームの移転に伴い、入居者のホーム間異動も検討する場合がございます。入居者様の生活習慣・人間関係・通所先との距離・送迎方法等を総合的に加味して利用者様の生活が安心安全なものになるよう考えていく所存です。また、現在、一つのホームに障害程度区分の重い方から区分の軽い方まで幅広く生活されております。障害特性や障害の程度を加味したホーム運営を今回の改築移転を契機として再度検討したいと考えております。具体的になったときは、皆様に移転に伴う転居等の相談をさせていただくことがあるかと思っておりますので、その際はご協力ご理解の程よろしくお願いいたします。また、グループホームに適した物件を現在探しております。皆様のお知合いの方で紹介できる方がいたらお知らせいただけたら幸いです。

■サポートウイズ

マネジャー 塚田充昭



年が明け、春がひととき待ち遠しく感じられます。皆様におかれましては益々清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

さてこの度生活支援事業所サポートウイズは、移動支援の登録ヘルパーの支援力の向上を企図して定例ミーティングを開催しておりますが、今回はすまいる高井戸のご協力をいただき、12/13に阿佐谷区民セン

ターにおいて虐待防止講習会を開催いたしました。参加されたヘルパーからは、「支援の現場で活かせる講習だった。」「具体的に虐待の内容が理解できた。」などのお声を頂戴しました。今後もサポートウイズは、総合相談支援センターの役割を十二分に発揮するべく、在住・在勤・各サービス事業者の連携を密にして、地域課題の解決の一助となる事業展開を思索していく所存です。厳冬の寒さこたえる折柄、くれぐれもご自愛ください。

■すまいる高井戸

センター長 阿久津庄司

去る、12月2日(土)に、杉並区地域自立支援協議会シンポジウムが開催されました。



内容は、「地域自立支援協議会の紹介」と、地域で暮らす障害者の生活について、障害のある人とない人が触れ合う、日常の一コマを当事者のお話や、寸劇でご紹介しました。

各すまいる(高井戸、荻窪、高円寺)は、それぞれ、身体、精神、知的の障害の一つを担当し、すまいる高井戸は、ピアスタッフで視覚障害者の佐藤さんにご協力いただいて、日常の一コマ(バスの乗車、レストランでの食事、スーパーで買い物)を私と寸劇で紹介しました。



障害のあるなしに関係なく、皆が地域で当たり前の生活ができるようになることは、決して容易なことではありませんが、今回のシンポジウムで、「それなら私でもできるかも」という気持ちになり、障害のあるなしの垣根を取り除く、とてもよききっかけになったのではないかと感じました。

■クローバー・マルコ

統括リーダー 加藤大貴

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年のクローバーは、新型コロナウイルスも落ち着き、さまざまな変化がありました。人材不足にも悩みながらも多くの方にご利用いただきました。今年はよりご利用者の方達の笑顔が見られるよう、職員一同心よりみなさまをお待ちしております。